

学校だより

いしずえ

甲斐市立双葉東小学校

平成20年11月21日号

道徳公開研究会を^{いしずえ}礎に！

「本日は授業参観，研究会に参加させていただきありがとうございました。家庭・地域と連携し，道徳教育に取り組む学校の姿勢が授業からも研究会からも感じ取れました。各学級・学年の子どもたちの人間関係，安心して発言・意見交換できる雰囲気，自分の考えを静かに書き出す，さらに自分の心のうちを見つめる時間もあり素晴らしいと感じました。＜やさしい心 あふれるえがお＞のキャッチフレーズが見て取れる学校づくりはとても参考になりました。」これは，今年7日に行われた本校の『平成20



▲1年3組「くまさんのなみだ」
役割演技と動作化授業

年度ふるさとやまなし道徳教育中間学習会』に参加していただいた，神奈川県厚木市の教頭先生から寄せられた感想です。また市内小学校の先生からは「双葉東小学校区の新興住宅地に住んで6年になりますが，ここ2年ぐらいで子どもたちの挨拶がとても活発になりました。挨拶されるととても気持ちがよく，希薄だった地域との関係がとても深まってきたように思えます。学校教育の成果が徐々に実ってきている実感があります。」という感想が寄せられました。今回は単なる授業公開ではなく，文科省並びに県教委指定「ふるさとやまなし道徳教育中間学習会」ということで，各授業に指導主事をはじめとする道徳専門家を招いたり，県下各学校の研究主任あるいは道徳主任に参加を求めたりして，本校の先生方をはじめとする教師対象の研究・研修を主眼とするものでした。そのために保護者の皆様方に対しては6月に授業公開をし，今回は保護者の皆様方に見ていただけなかったのが残念でしたが，このような形式を取らせていただきました。



▲2年2組「ふえをふいて」
保護者参画型授業



▲3年2組「花さき山」
副読本と学習シート活用授業

また，厚木市の別の学校の教頭先生から「双葉東小学校へ来て感動したことが3つあります。1つめは，分科会が始まる前までわかりませんでした。湯茶を接待している方々はここの先生方ばかりだと思っていたことです。それは双葉東小学校の様子や歴史的なことを聞いても，とても丁寧に分かりやすく説明していただいたからです。保護者のみなさんが，学校のことにとても関心を持ち，自分の学校のように語る姿は，まさに学校と保護者が一体となって子どもたちの教育に当たっている理想の姿であると感じました。2つ目は，子どもたちがとてもよく挨拶してくれる姿です。ただ挨拶するのではなく目を見て微笑みかけるように挨拶してくれました。これは昨日今日取り組めばできることではありません。素晴らしいことです。3つ目は，1回目の授業の後トイレに入ったと



▲4年2組「この村に水を」
自作教材と地域人材活用授業

ましたが、現実にはなかなかきびしいものがあります。たとえば、数日後すべてのトイレを回ったところ、きちんとスリッパが揃えてあるところはひとつもなく、3階の男子トイレは散乱状態でした。《おもいやりのバトンパス！》の文字が妙にむなしく感じら



▲6年1組「そんなともだちなら、
いなくたっていいじゃないか」
保護者参画型授業

れました。校長の不徳のいたすところだと反省させられました。あいさつにして

も、まだまだしっかり身に付いていない子どもたちもいます。清掃にしてもしかりです。『躰』の範疇だけに学校教育だけではなかなか解決できない問題でもあります。各家庭を背負って集まる子どもたちの社会集団でもある学校だけに、朝から暗い顔であいさつも満足にできない精神状態の子どもや、なかなか履物をそろえることができない子どももいます。しかし学校は子ども集団と個の関係を大切に考え、そのことから生きる力を身に付けさせるところだけに、家庭教育では出来ないことも出来るようにさせることも可能なわ

けです。学校だから『躰』ができる部分もあると確信しています。

この公開研究会において、参加された多くの先生方から、子どもたちを・授業内容を・教職員集団を・双葉東小学校をお褒めいただきました。湯茶接待時にPTA役員の方々が見せた言動が示すとおり、家庭と学校が共に手を携えて子どもたちの教育にあたる必要があることを、いまさらのように感じる事ができました。授業後の分科会においても、すべての分科会が時間を延長し活発な授業論議で盛り上がりました。授業を公開した先生方ばかりでなく、授業サポートしたすべての教職員にとって、今後の道徳授業を展開していく上での多くの示唆を得ました。まさにこの学習会は多くのお土産をもらうことができました。子どもたちを『かしく やさしく すこやかに』育てるためにも、みんなで取り組んで行きたいと思えます。ご協力をお願いします。

ころ、子どもたちも数人トイレに入っていました。履物は前の人たちが使用したのか乱雑な状態でした。私がトイレをしている時、済ませた子どもたちが当たり前のようにスリッパをそろえ、出て行ったことです。すごいなあと思って、スリッパの揃えてある場所を見ると、そこには《やさしさのバトンレー！》と書いてありました。このことを自分の学校に帰り、校長先生に話し、全校で取り組みたいと思います」と私に熱く語りかけて

くれました。うれしい感想であり、話であり



▲5学年「稲むらの火」
学年道徳とゲストティーチャー授業

ました。校長の不徳のいたすところだと反省させられました。あいさつにしても、まだまだしっかり身に付いていない子どもたちもいます。清掃にしてもしかりです。『躰』の範疇だけに学校教育だけではなかなか解決できない問題でもあります。各家庭を背負って集まる子どもたちの社会集団でもある学校だけに、朝から暗い顔であいさつも満足にできない精神状態の子どもや、なかなか履物をそろえることができない子どももいます。しかし学校は子ども集団と個の関係を大切に考え、そのことから生きる力を身に付けさせるところだけに、家庭教育では出来ないことも出来るようにさせることも可能なわ



▲授業後の分科会＝研究会の様子